

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



1970 年生まれ 専大卒・早大院修了 4 期目現職(印西市・栄町選挙区)

栄町安食台 2-26-23-202 fax0476-36-7802 mail@iwai-y.jp

板倉 はい。加えて言うならば、データセンターは、施設内のサーバー機器が5〜6年で更新されることとなるため、県内屈指の市財政力は、今後かなりの期間続くと見られています。

岩井 そうですね。データセンター進出により、市の財政力が大きく向上しました。平成22年度に72億円ほどだった、市の固定資産税収は、今後200億円にまで増加すると見込まれています。

印西市役所 北総線駅近くの新設

の取組みが必要ですね。

板倉 市のイメージアップは、様々な面で地域活性化に繋がる点で引き続き重要です。現状に甘んじない、不断の取組みが必要ですね。

行った結果」と評価しています。

岩井 同報告書は印西市について、「他の自治体とは違う特長を有し、それを全面に打ち出したまちづくりを行

っていることを意味しているんです。

板倉 はい、本市は、実際の統計データである「定量」より、満足度指数とも言える「定性」が高いのが特徴です。これは、市民に好イメージを持たれていることを意味しているんです。

岩井 ちばぎん総研による県内市町村の調査結果を拝見しました。印西市の総合評価は、浦安市、成田市、流山市に次いで4位と高位にありますね。

板倉 はい、本市は、実際の統計データである「定量」より、満足度指数とも言える「定性」が高いのが特徴です。これは、市民に好イメージを持たれていることを意味しているんです。

	総合評価	全体	子育て	教育	医療	福祉	都市基盤	住環境	就業	観光	安全安心	環境文化
浦安市	62.8	定性: 65.4 定量: 60.3	62.5	68.2	63.7	68.9	69.6	70.1	70.4	73.0	61.2	46.4
成田市	58.9	定性: 64.6 定量: 53.2	59.6	64.5	65.2	59.6	60.3	59.3	70.2	72.2	60.6	74.0
白井市	50.4	定性: 50.2 定量: 50.5	47.7	44.9	61.4	53.1	56.7	51.8	47.7	34.8	61.3	42.8
佐倉市	52.2	定性: 54.3 定量: 50.2	52.3	56.5	54.2	53.5	59.6	57.6	50.3	47.5	54.8	56.7
流山市	58.6	定性: 62.8 定量: 54.4	73.4	65.0	60.4	62.7	63.6	66.9	63.5	54.4	66.7	51.8
印西市	57.0	定性: 61.1 定量: 53.0	65.5	66.0	57.4	58.8	64.6	65.6	59.6	49.9	71.1	52.4

(株)ちばぎん総合研究所「数値でみる千葉県市町村の地方創生」(2022年)より

印西市評価県内4位 ちばぎん総研

緊急
対談

市長×県議

印西市政の未来を展望する



印西市長

いたくら正直

千葉県議会議員

岩井やすのり

板倉正直・印西市長とは、地元選出の県議会議員として交流を重ねてきた。印西市の将来ビジョンから地域内の道路問題に至るまで、二人で交わした議論は

枚挙にいとまがないほどである。今回は、印西市の評価の状況と、市役所移転などの行政課題への取組みについて、その考えを明らかにする。



岩井 さて、この9月より、小中学校給食費の完全無償化が始まると聞いています。「第3子以降のみ」等の条件がない完全無償化は県内15例目、

「給食費完全無償化」実施団体

人口	市町村名
10万人以上	市川市、浦安市 印西市(R6年9月～)
10万人未満	いすみ市、勝浦市、神崎町 多古町、東庄町、九十九里町 芝山町、横芝光町、長柄町 長南町、大多喜町、鋸南町

千葉県内のみ/令和6年4月時点

9月より学校給食費 完全無償化

板倉 その通りですね。同地区に支所を設置することはもちろんのこと、デジタル化の推進により、本庁と同様の行政サービスが受けられるようになる必要があります。また、木下駅前にぎわい広場を活用しながら、同地区の新たなにぎわいを創出していきたいと考えています。

岩井 ニュータウン地区を含む印西地区、旧印旛村地区、旧本埜村地区からの利便性が良くなることになり、岩井としても妥当な判断であると思います。一方、木下、大森地区には多くの市民が暮らしており、行政機能の低下があつてはならないと考えますが？

岩井 北総線駅という点、具体的には千葉ニュータウン中央駅や印西牧の原駅の周辺ということになりますね。ニュータウン地区を含む印西地区、旧印旛村地区、旧本埜村地区からの利便性が良くなることになり、岩井としても妥当な判断であると思います。一方、木下、大森地区には多くの市民が暮らしており、行政機能の低下があつてはならないと考えますが？

人口10万人以上では、市川市、浦安市に次いで、県内3例目となりますね。**板倉** 子育て世帯の負担軽減となることはもちろん、学校給食法により定められていた、食材購入費の上限額が、事実上、撤廃されることも大きなポイントです。食材価格が高騰する中、良質な食材の確保に苦勞を強いられてきましたが、これからは、「地産地消」など良質な食材が使いやすくなるというわけですね。

岩井 給食費完全無償化は、人口減が続く市町の、移住定住政策の一環として実施されてきており、年少人口割合県内トップ10の自治体では、印西市が初となります。子どもが多く、人口増が著しい中での本市の取組みは、人寄せではない、純粋な子育て支援策である点でも注目されています。

岩井 最後に、学童保育での給食について提案させていただきます。放課後や長期休み中に子どもを預かる学童保育ですが、給食の制度はありません。夏休みなどの長期休み中は、家庭で通所児童の昼食を用意する必要があります。一方、給食センターは稼働が停止しています。この給食センターの施設を利用し、長期休み中の学童保育に給食を提供できればと思うのですが。

板倉 市内の共働き世帯は多く、なっており、学童保育には2千名もの児童が通っています。そうした家庭の朝は特に忙しいもので、給食がなくなる夏休みなどには、大変な負担になっていることと想像します。学童保育の給食実現については、しっかりと検討していきたいと考えています。

岩井 この問題は市議さんから指摘されたものですが、これ以外にも様々な課題について、指摘、要望できればと考えています。引き続き、地元県議として、市と連携した取組みをさせていただきます。ありがとうございました。

信号機未設置事例としてNHKも取り上げ 竜腹寺交差点

見通しが悪く、死亡事故も発生している印西市・竜腹寺554-1先交差点（以下、竜腹寺交差点）。4月には、信号機が設置されない交差点として、NHK のニュース番組が取り上げ放送。交差点先に計画される印西市道の開通が、問題解決の力を握ります。

●信号機予算不足 年 300 件の要望に新設 10 基

これまでも県議会にて取り上げてきた、竜腹寺交差点の信号機問題。同交差点は、笠神、中根地区など旧本埜村中心部の住民が多く利用するところですが、市道側からの見通しが悪い上、県道側はスピード超過車両も少なく、車両の右左折時にヒヤッとさせられることは日常茶飯事です。

同交差点では、平成 22 年の四輪車と歩行者による死亡事故に続き、昨年 1 月にも四輪車と二輪車が絡む死亡事故が発生。昨年 3 月には地元竜腹寺地区から信号機設置に関する要望書が提出されたものの、未だ改善のめどは立っていません。

そもそも、信号機設置の遅れの背景となっているのが県の信号機予算の不足。県警は、信号機の維持管理の費用として毎年約 40 億円を投入していますが、これは県警の交通関連の予算の 4 割を占め、他の予算を圧迫しています。結果、千葉県内で出される信号機の新設要望が年間 300 件ある中で、新設されるのは年間 10 基程度にとどまっているのです。

●NHKニュースでの取り上げ 追い風を期待

そのような中、竜腹寺交差点の信号機問題を取り上げたのは、NHK のニュース番組「首都圏ネットワーク」。6 年度県当初予算におい



て信号機予算が減額されたことを受け、県内の信号機未設置事例を追ううちに、死亡事故が複数発生している同交差点に行きついたとのこと。実は、県議会で繰り返し問題を取り上げてきたとして、岩井も記者さんから取材を受けるとともに、事情を知る地元地区長さん等を紹介させてもらっています。今回のニュース番組での取り上げが、問題解決の追い風になることを期待してのことです。

●市道竜腹寺線 印西市と連携して取り組む

さて、この竜腹寺交差点から、南側にある北千葉道路へと市道竜腹寺線で結ぶ計画があります。残る工事区間は 150 ㎡足らずで、用地取得も終えている状況ですが、全長 100 ㎡超の橋梁を設置する必要があり、完成のめどは立っていません。

竜腹寺交差点の信号機設置は一刻も争う課題と言えますが、警察当局は同市道の開通を待って、整備したいとの意向が見え隠れしています。引き続き、千葉県警による早期の信号機設置を求めていくとともに、印西市と連携を図り、市道竜腹寺線の全線開通についても働きかけを行ってまいります。



マイナ保険証への移行 問われる日本のデジタル化

●マイナ保険証の利用率 わずか 4.6%

今年 12 月の現行保険証の廃止を控え、普及促進が図られるマイナンバーカード保険証（マイナ保険証）。2 月の厚労省の報告によると、マイナンバーカード保有者 9168 万人のうち、保険証としての利用登録を完了したのは 7143 万人（全人口の 56.9%）。マイナ保険証の利用実績は 753 万 3270 件で、利用率はわずか 4.6% です。今年 12 月に現行保険証の廃止が予定される中、利用率の伸び悩みが顕著となっています。

なお、現行保険証が廃止されても、今年送られてくる新しい保険証は来年の利用期限まで利用できるとのこと。マイナンバーカードを持っていない人、マイナ保険証の利用登録を行っていない人については、保険者から送られてくる「資格確認書」で受診できることとなっています。

●マイナ保険証は「マイナンバー」を使わない

さて、窓口での限度額以上の支払いが必要となること、引越し等による保険証更新

が必要となること等、マイナ保険証によるメリットはいくつか挙げられますが、個人的には、医師に患者情報を正確に伝えられるところにあると思っています。

お薬手帳に記載されない入院中の薬剤や院内処方された薬剤を含め、他の医療機関や診療科で処方された薬剤の情報に加え、これまでの受診履歴や健診記録情報についても、診察する医師に提供できるようになります。

一方、マイナンバーカードに記載されているマイナンバー、IC チップから個人情報漏洩の恐れがあるとの指摘は間違い。マイナ保険証では IC チップの中の電子証明書を使うため、マイナンバー（12 ケタの数字）は使われませんし、IC チップに受診歴や薬剤情報等の個人情報が記録されることもありません。そもそも、病院等の窓口でマイナ保険証を渡すわけではないので、情報が盗み見られるというリスクはまず考えられません。



●「アナログ日本」を変えなければならない

そもそもですが、受診の際にお薬手帳を持参し、処方薬情報をシールで貼付してもらうというのは時代遅れが過ぎると思ってきました。コロナ禍にあって「アナログ日本」が露呈し、対策に費用と時間がかさんだことは記憶に新しいところ。社会のデジタル化、IT 化の遅れが、わが国の競争力を損なってきたことは論じるまでもなく、そういう意味でも、マイナ保険証への移行は果たしていかなければならないものと考えます。